

中学年 第4学年の授業づくり

研究授業前の 児童の姿

- 自分の意見を受け止めてもらえる心地よさを感じ、伝え合うよさを実感している。
- 叙述を根拠にせず、想像だけで話し合いを進めることが多い。また、自分の考えをもてずに話し合いに戸惑う児童がいる。

研究授業 10月24日（金）

単元名 物語を読んで考えたことを話し合おう
教材名 「ごんぎつね」（光村図書 4年）

授業の工夫

- 1 単元を通して学習の流れを統一して学習を進めることで、授業の見通しをもたせる。
教科書にサイドラインを引き、叙述を基に自分の考えをもつためのスキルを身に付けさせる。
- 2 児童が考えた「話し合いのコツ」から、伝え合うよさを実感し、友達と自分の意見の相違点を見つけ、物語を読み深めようという意欲をもたせる。

1 学習の流れの工夫

学習の流れを提示したことで、活動に見通しをもつことができ、児童がより積極的に学習に取り組むことができるようになった。

また、全場面においてごんの気持ちが読み取れる叙述にサイドラインを引くことで、作品を読み深めると同時にごんの気持ちを追うことができた。そして、授業の振り返りに書いた『ごんのほら穴日記』を書き溜めていくことによって、ごんの気持ちに寄り添い、気持ちの変容を捉えることができた。

ノートを読み返すと、ごんの兵十への思いが高まる様子や、自分の行為を認めてもらいたいという思いが膨らんでいく様子を捉えられた児童が多くいた。ごんの気持ちを読み深めることによって、音読では、声の抑揚や間の取り方など工夫するようになった。

2 伝え合いのよさを実感し、意欲をもたせる工夫

話し合いがしやすいように、自分たちで「話し合いのコツ」を考え、そのコツに沿って話し合いを進めた。友達の見解と同じだったら付け足して話したり、「本当にそうなのかな。」と疑問を感じたら、どうしてそう思うのか、互いに納得がいくまで話し合ったりすることができた。友達の見解を取り入れながら学習の振り返りとしての『ごんのほら穴日記』を書くことができ、友達の見解を受け止めて話し合いをするよさを実感できた。

研究授業 成果と課題

- ☆友達の見解を受け止め、話し合いを深めようとする姿が見られた。
- ★トリオ学習の時間を確保することと、まとめをどのようにしていくかが課題となった。

研究成果報告会 授業のポイント

単元名 読後感の生まれるひみつをさがろう
教材名 「初雪のふる日」（光村図書 4年）

「話し合いのコツ」を使い、自分の考えや感想の中心を明確にして理由を伝え合うことで、一人一人の感じ方の共通点や相違点に気付く読みの授業

- ☆学習の流れ☆
- ①前場面の振り返り
 - ②本時の場面の音読
 - ③個人学習（サイドライン・ふせん）
 - ④トリオ学習（話し合いのコツを使う）
 - ⑤全体交流
 - ⑥振り返り（ごんのほら穴日記）
 - ⑦読み取った気持ちをふまえた音読（宿題）

